

科目名	日本語学特講	担当者	モリ森 アツシ 篤嗣	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>研究において重要なことは「疑う」ことである。もっともらしく説明されていたとしても、それが事実であるかどうかを検証する必要がある。この講義では、作例などの内省と、実例によるデータを参照し、文法を中心とした現代日本語の諸問題を検証する方法を身につける。前期は、基本教材1を読み進めて現代日本語を体系的に把握すると共に、教材で説明されていることの中から「本当にそうか？」と疑いを持つ項目を選定して、作例や実例などを用いて検証を試みてもらう。後期は、基本教材2と動画からコーパスを活用する方法を身に付け、実例に基づいた検証をより効率的におこなう方法を修得する。以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力を中心に、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、協働力、省察力、世界の現状を理解し説明する能力の獲得を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 文法を中心とした現代日本語の諸問題を検証する方法を身につける</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文法を中心とした現代日本語の各項目について説明できる。 説明がされている項目に「疑い」を持ち検証することができる。 検証の方法として内省だけでなくコーパスを活用できる。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う。(課題図書等に関する受講者 同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等) manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。 <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>(自習) 教材と関連文献を熟読する。15 時間 (自主研究) 課題の探索をおこなう。10 時間 (レポート作成) レポートの作成・レポート推敲。10 時間 (ディベート) 掲示板上のディスカッション、ピア・レスポンス (受講者同士で課題およびレポートにコメントをし合い、推敲する協働活動) 10 時間</p> <p>★学習時間は課題レポート1件あたりの目安時間</p>		
スケジュール	<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> レポート課題 1 締切6月末(初稿)前期締切日(最終稿提出期限:学事歴で定められた日) レポート課題 2 締切8月末(初稿)前期締切日(最終稿提出期限:学事歴で定められた日) <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> レポート課題 1 締切10月末(初稿)後期締切日(最終稿提出期限:学事歴で定められた日) レポート課題 2 締切12月末(初稿)後期締切日(最終稿提出期限:学事歴で定められた日) 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	論旨明確さ、独創性、構成、文章表現の妥当性、引用の適切性等 *前期レポート課題1・2と後期レポート課題1は最終稿で評価する。 *後期レポート課題2は最終試験として初稿で評価する。提出後の指導、ピア・レスポンスは通常通り行う。
	観察記録	20 %	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> レポートは、初稿から最終稿にいたるまで、教師のフィードバックによる書き直し、ピア・レスポンスによる推敲、最終稿の完成と段階的に進める。 早い段階で第1回目のピア・レスポンスを行い、協働学習活動を積極的におこなってほしい。 レポートでは、引用のルールや参考文献の明示、制限文字数がある場合は文字数(参考文献、注を除いたもの)を遵守すること。無断引用等、研究倫理上の重大な問題があった場合は、評価の対象外となる。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 庵功雄 教材名： 『新しい日本語学入門：ことばのしくみを考える [第 2 版]』（スリーエーネットワーク，2012 年）ISBN：978-4883195893 2,000 円＋税</p> <p>現代日本語学についての概説書。音声・音韻や社会言語学にも触れているが、文法が中心となっている。日本語学の全体像を把握するのに格好の教材である。</p>
参考図書	<p>衣畑智秀（編著）『基礎日本語学』（ひつじ書房，2019 年）ISBN：978-4894769465 1,800 円＋税 原沢伊都夫『考えて、解いて、学ぶ日本語教育の文法』（スリーエーネットワーク，2010 年）ISBN：978-4883195428 1,600 円＋税 日野資成『ベーシック現代の日本語学』（ひつじ書房，2009 年）ISBN：978-4894764385 1,700 円＋税 藤田保幸『緑の日本語学教本』（和泉書院，2010 年）ISBN：978-4757605411 1,300 円＋税 益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法：改訂版』（くろしお出版，1992 年）ISBN：978-4874240663 2,200 円＋税 益岡隆志（編著）『はじめて学ぶ日本語学：ことばの奥深さを知る 15 章』（ミネルヴェ書房，2011 年）ISBN：978-4623061211 2,800 円＋税</p>
履修上のポイント	<p>基本教材 1 は日本語学の基礎的内容なので、いずれの章も十分理解してほしい。説明されている項目に納得してしまうのではなく、内省を働かせ、「本当にそうか？」という疑い（批判的思考）を持って読んでほしい。余裕があれば、参考図書にあげた文献と比較して読むと、さらに理解が深まる。特に関心がある章については、参考図書の解説を読んでみることを勧める。ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点も理解しながら現代日本語文法に関する理解を確実なものとしてほしい。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材 1 の第 1 章～第 14 章を理解し、「本当にそうか？」と疑いを持つ項目を選定して、作例や実例（普段読んでいる書籍や雑誌などから）などを反例として挙げながら、「必ずしもそうは言えないのではないか」という検証を論述する。先行研究を参照する場合は、適切に引用すること。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材 1 の第 15 章～第 25 章を理解し、「本当にそうか？」と疑いを持つ項目を選定して、作例や実例（普段読んでいる書籍や雑誌などから）などを反例として挙げながら、「必ずしもそうは言えないのではないか」という検証を論述する。先行研究を参照する場合は、適切に引用すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 中俣尚己 教材名： 『「中納言」を活用したコーパス日本語研究入門』（ひつじ書房，2021 年）ISBN：978-4823410598 1,800 円＋税</p> <p>国立国語研究所が開発したコーパス検索アプリケーション「中納言」を活用して日本語研究をおこなうための解説書である。「中納言」の単なる使用方法にとどまらず、コーパスを活用した日本語研究をおこなう際のノウハウが詰め込まれている。</p>
参考図書	<p>李在鎬，石川慎一郎，砂川有里子『新・日本語教育のためのコーパス調査入門』（くろしお出版，2018 年）ISBN：978-4874247716 2,400 円＋税 野田尚史，迫田久美子（編著）『学習者コーパスと日本語教育研究』（くろしお出版，2019 年）ISBN：978-4874248003 2,700 円＋税 中俣尚己『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』（くろしお出版，2014 年）ISBN：978-4874246306 1,800 円＋税 森篤嗣（編著）『日本語教育への応用（コーパスで学ぶ日本語学）』（朝倉書店，2018 年）ISBN：978-4254516555</p>
履修上のポイント	<p>基本教材 2 をよく読んで、コーパス検索アプリケーション「中納言」を使えるようになってほしい。そして、前期では少数の作例や実例だけで検証しようとした項目を、大量の言語データに基づいて量的に検証が可能になることを知ってほしい。</p> <p>また、基本教材 2 の著者による「中納言」の利用方法についての解説動画が公開されているので、オンデマンド教材として積極的に活用してほしい。 https://www.youtube.com/channel/UCk6pcsLUyp0Z9ZEPnVpb7TQ</p> <p>余裕があれば、参考図書にあげた文献と比較して読むと、さらにコーパスに対する理解が深まる。特に関心がある章については、参考図書の解説を読んでみることを勧める。ピア・レスポンスの活動を通して、他者の方法や工夫も参照しながら、コーパスを活用した日本語研究に関する理解を確実なものとしてほしい。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材 1 の第 1 章～第 14 章を読み返し、「本当にそうか？」と疑いを持つ項目を選定して、コーパスを活用して、「必ずしもそうは言えないのではないか」という検証を量的（パーセントや統計的有意差）かつ質的（検索結果を例文として分析）に論述する。先行研究を参照する場合は、適切に引用すること。</p> <p>留意点：レポートで扱う選定項目は前期と同じ項目でも、別の項目でも可とする。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材 1 の第 15 章～第 25 章を読み返し、「本当にそうか？」と疑いを持つ項目を選定して、コーパスを活用して、「必ずしもそうは言えないのではないか」という検証を量的（パーセントや統計的有意差）かつ質的（検索結果を例文として分析）に論述する。先行研究を参照する場合は、適切に引用すること。</p> <p>留意点：レポートで扱う選定項目は前期と同じ項目でも、別の項目でも可とする。</p>

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1～5 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 6～10 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の第 11～14 章
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の第 15 章～第 17 章
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の第 18 章～第 20 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の第 21 章～第 23 章
第 11 回	教材の学修：基本教材 1 の第 24 章～第 25 章
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の第 1～2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 3～4 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の第 5～6 章
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 2 の第 7 章～第 8 章
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の第 9 章～第 10 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 の第 11 章～第 12 章
第 11 回	教材の学修：基本教材 2 の第 13 章～第 14 章
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成